

R-18

正義のヒーロー

マイティウーメン

怪人チンポ
全敗北して

マゾメス堕ちる話



ひなえろん

ド
オオ
ン

怪人出現！
至急避難を
開始して下さい！

ク
ク

怪人出現！

フ
ア
ア
ア

キ
ャ
ー
ッ

速やかに
避難を…っ！

ブ
ブ
ブ
ブ

ひっ…

ギ
シ
ヤ
ア
ア
ア
ア
!!

き
ゃ
あ
あ
あ
っ
!!





ギギ!?



誰かー!



もう大丈夫よ

あ…っ
あなたは…



ギイイイツ!

クッ

クッ

私たちのヒーロー
マイティウーマン!

またも怪人を
やっつけてくれました!

フアア

フーン

戦いの後だというのに
なんて静かで優雅な
微笑みを浮かべて
いるのでしょうか!

フアア

私たちは今日も
彼女に救われました!
感謝の音が街中に響いております!

キャーッ







高木先生は
ボクのクラスの担任教師

正体はなんと
あのマイティウーマン

ヒーローの特殊な力とやらで
周囲には正体を気付かれなくしてるらしい

じゃあ何でボクが
先生の正体を知っているかって……?

それは前に先生が
ヒーローに変身するところを
目の前で見てしまったから

よく耐えたわね
タケルくん



男の子なんだから
泣いちゃダメよ



グッ
どんな時もあるからね
正義は必ず勝つんだから

それと私の正体：
みんなには言わないでね♥

これはボクと先生の
二人だけの秘密だ





わしの傑作を
次々と破壊しおって!

怪人ドクターヴェノム



怪人研究所



いままじろ...
マイティウーマンめ...っ



ヒョコ...
今に見ている

キーン

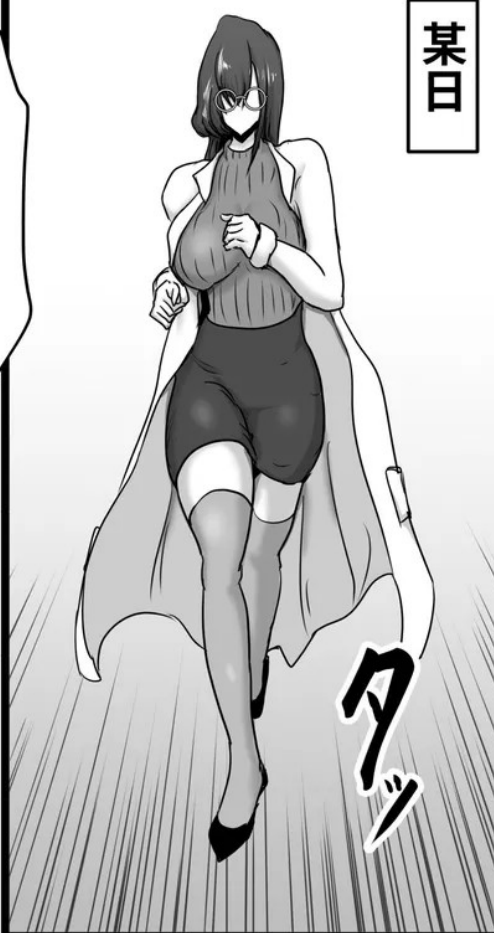
まさか教師をしているとはな

このワシの頭脳と策で
ひねりつぶしてくれるわ



だがあの女の正体
ついに突き止めたわ!

透視追跡怪人アイ

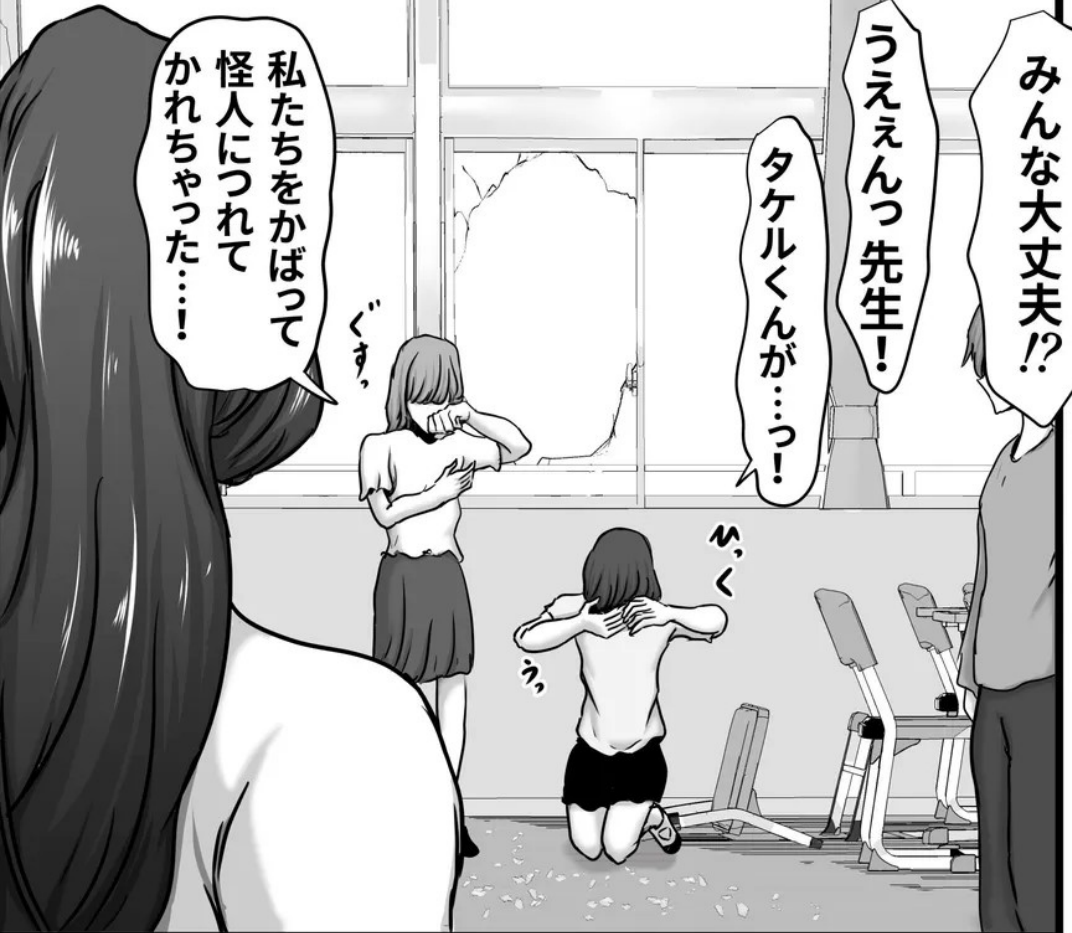


みんな大丈夫!?

うええんっ先生!

タケルくんが…っ!

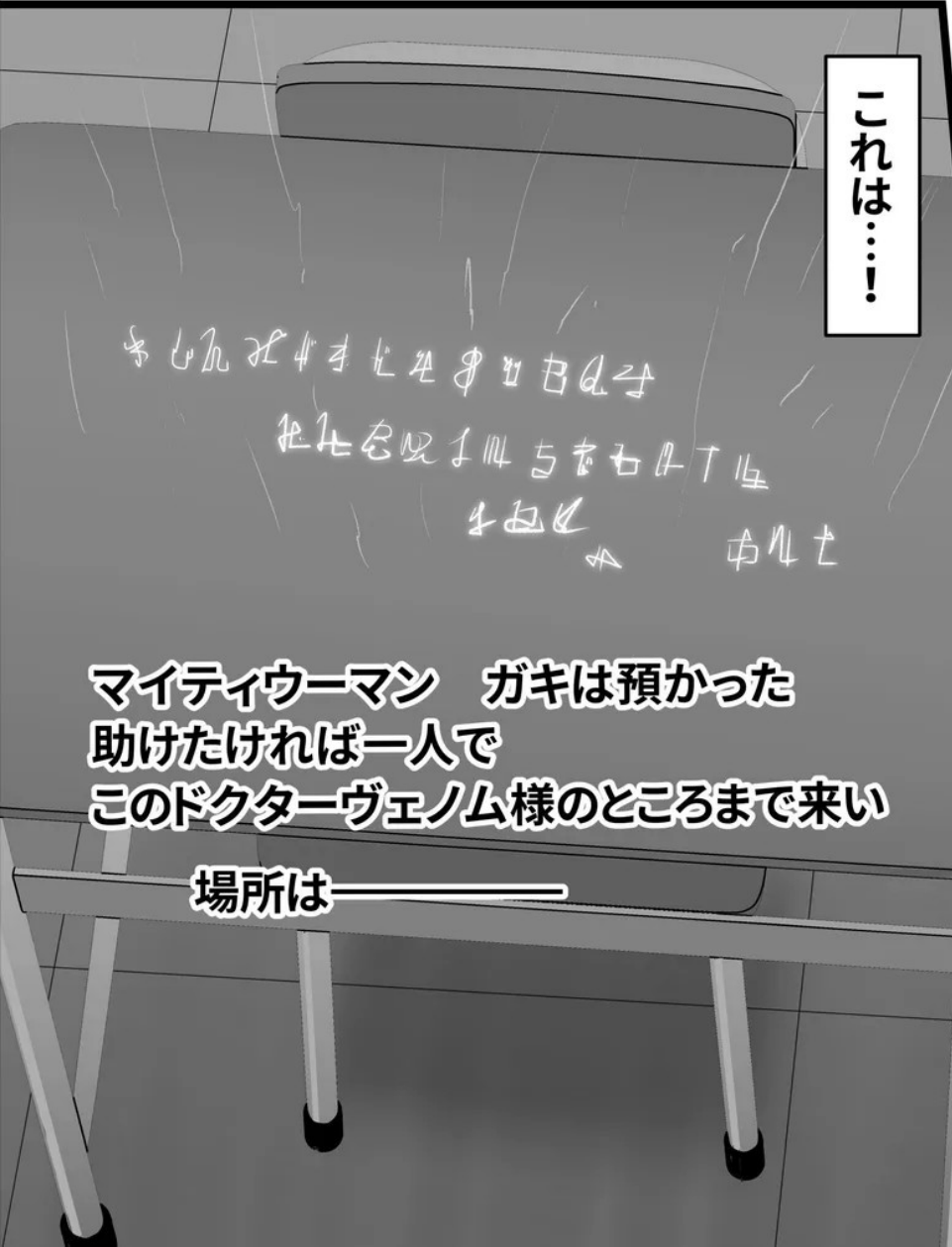
私たちをかばって
怪人につれて
かれちゃった…!



微量の
エネルギー反応…!



これは…!



キミはガキを助けた
このドクターヴェノム様のところまで来い

マイティウーマン ガキは預かった
助けたければ一人で
このドクターヴェノム様のところまで来い

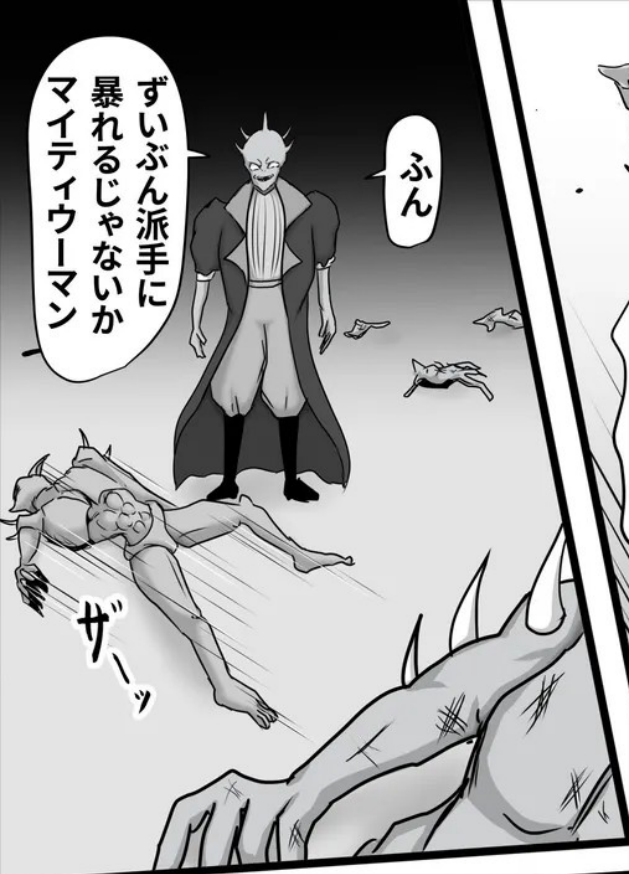
場所は_____



ドクターヴェノム…
怪人を作り出し人間社会に
送り込む諸悪の根源

絶対に私が倒す
もうこの街に危害を
加えさせない…っ！





ずいぶん派手に
暴れるじゃないか
マイティウーマン

ふん

ザーッ



ギィィィィ!



こちらには
人質がいるんだぞ?

自分の立場が
わかっていないようだな



まさか自ら居場所を
明かしてくれるなんて
思わなかったわ

ドクターヴェノム
あなたの悪事は「こ」までよ

大人しくしろ
ヒーローパワーの
情報をすべて
吐いてもらおう

これ以上暴れたら
あのがきがどうなるか…
わかってるな？

情報を聞き出した後は
その身体を
研究材料にしてやる！
ここからは生かして帰さん！

うふふふ

なに笑って…



!?

なぜに
がきが…

先生はすぐに
かけつけて
助けてくれた

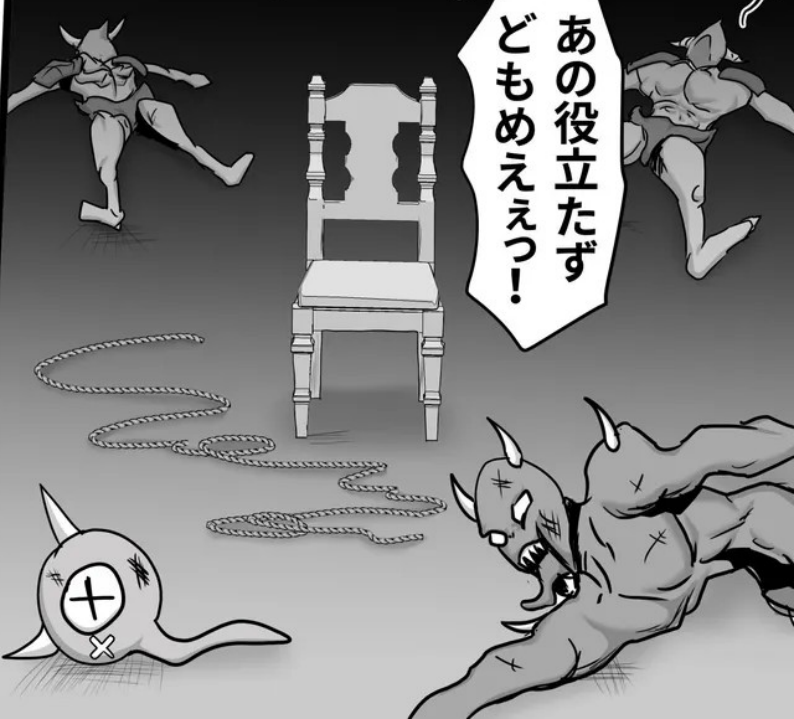
本当に頼りになる
かっこいいヒーローだ

か…
かくなる上は…

キエエエエッ！

チーン

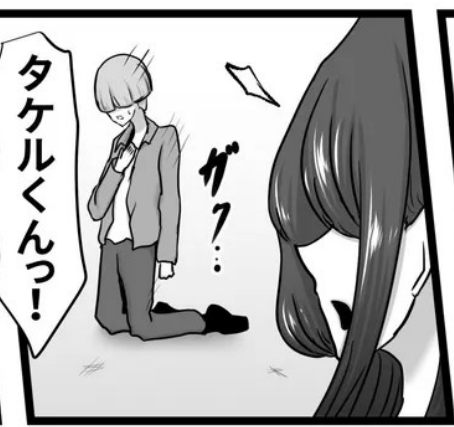
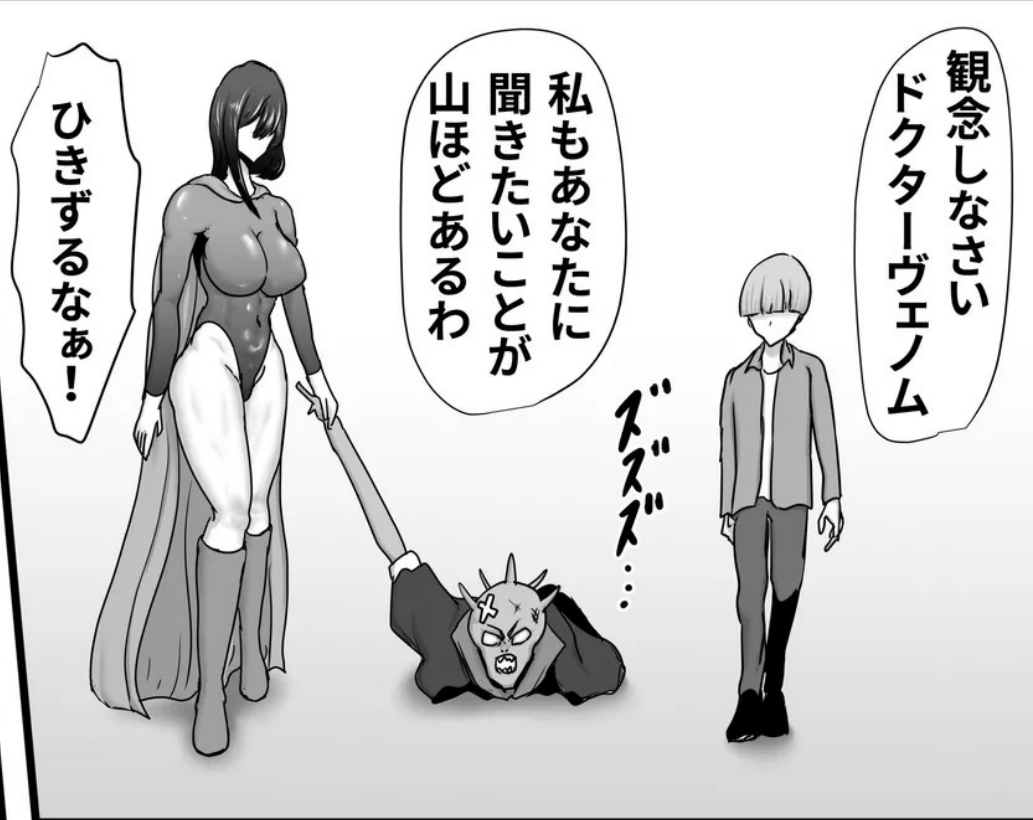
あの役立たず
どもめええつ！





.....

うわ





人間に効く遅効性の
臭気毒をなあつ!

無臭で視認も不可能!
さすがのお前も
気付かなかったようだ



こんなこともあろうかと
あらかじめ
この建物中に罠を
仕掛けていたのだ



ヒヒヒ…湧いてくる…っ
力が湧いてくるぞ!



カツ



そしてこの秘薬を
飲めば…

怪人化が進むにつれて
知性は欠落していくが…

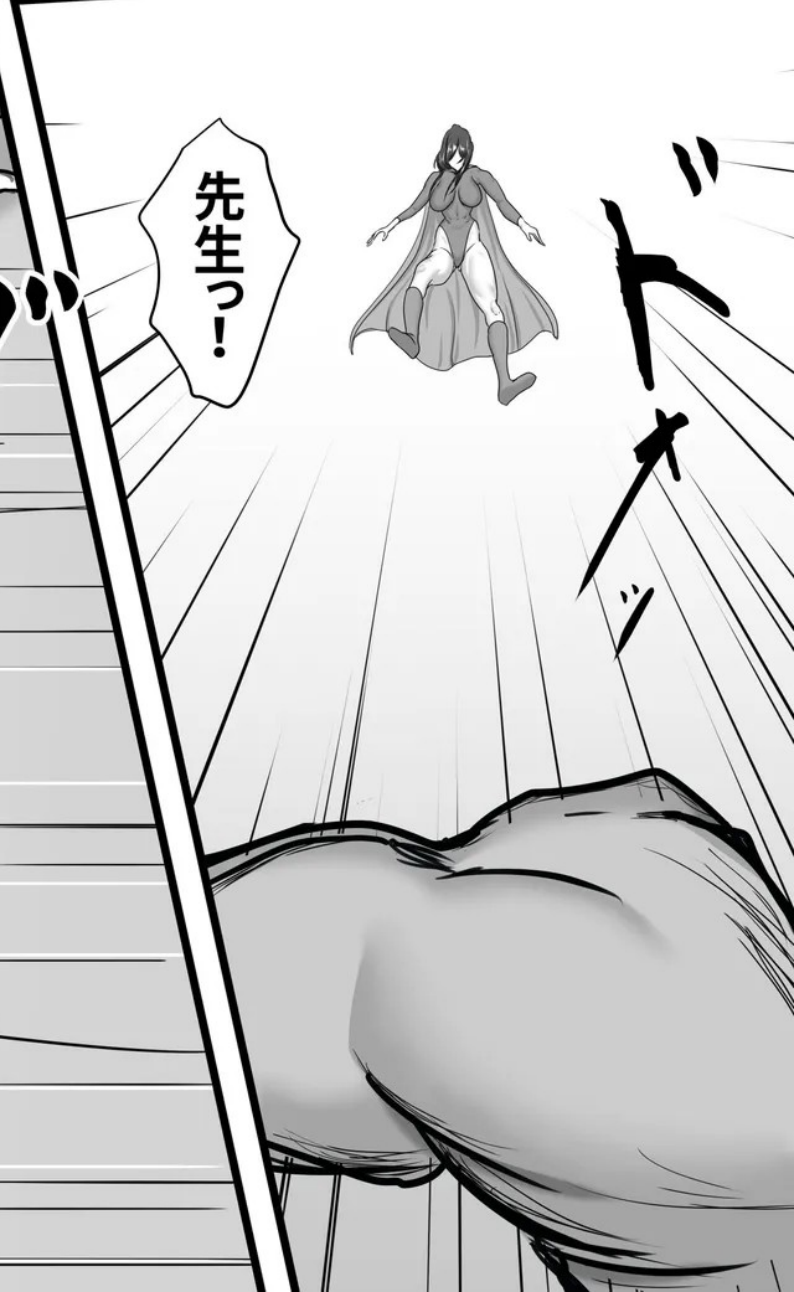
この薬は怪人化を完全に
コントロールできるように
調合してある

ノーリスクで莫大な力を得ることが出来る
ワシが発明した超秘薬よ





い…いきなり
身体が大きくなった
何が起こって……





かたい…っ!
まるで…
てきたえがないっ!

打撃で
痛みを受けるたびに
身体がうずく…っ

身体が…
熱い…っ！



ヒーローエネルギーとは
並外れた精神力からくる
特別な人間の力だ

ワシはそれを
無力化する方法を
考えた



お前が吸った臭気毒は
人間の生殖本能に作用して
性的快感を格段に倍増させる
媚薬が含まれている

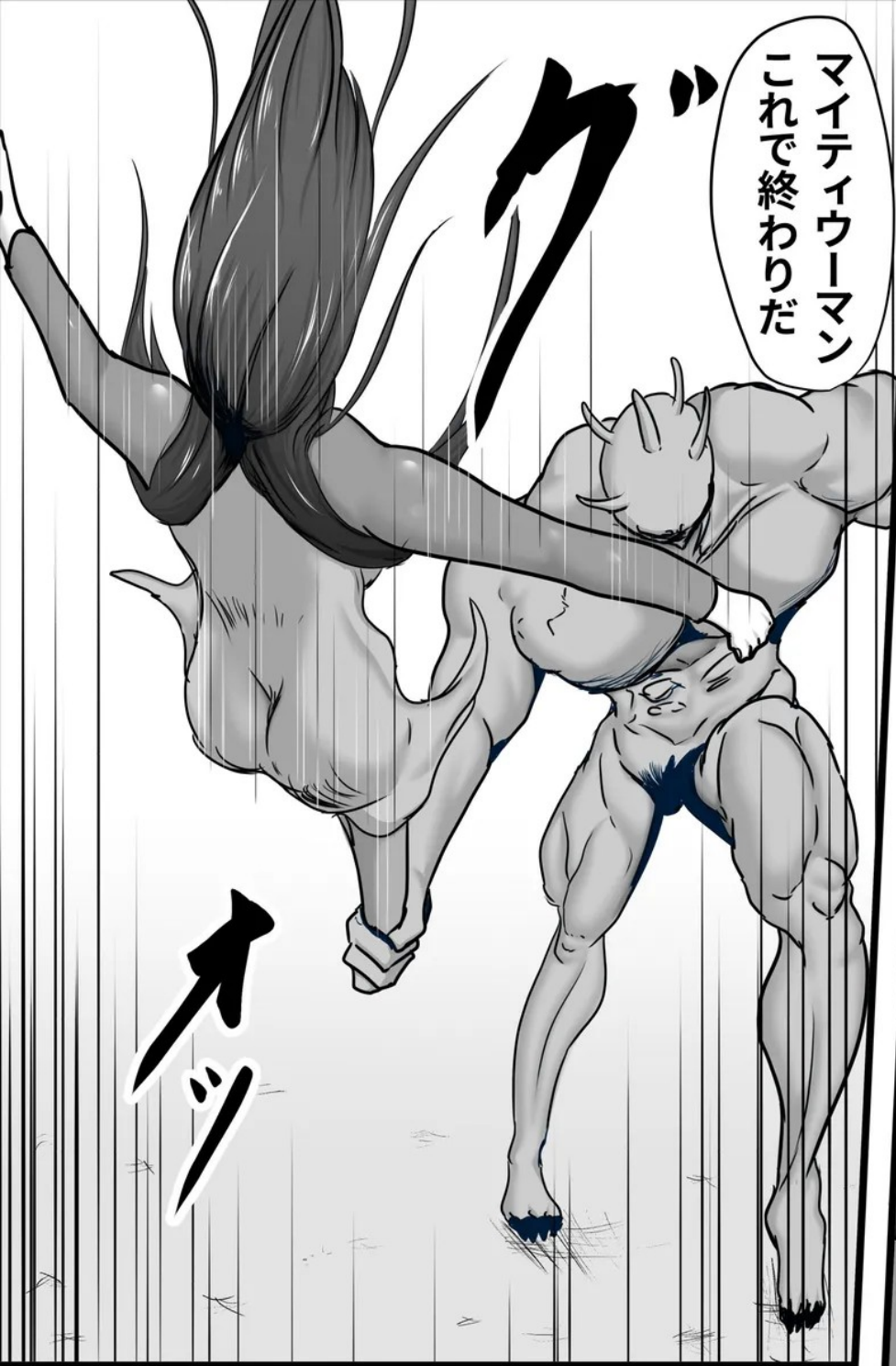
痛みの刺激さえ
快感に変えるほどのな

お前がワシの可愛い怪人を
倒すたびにどうやって
復讐しようかと考えておった...

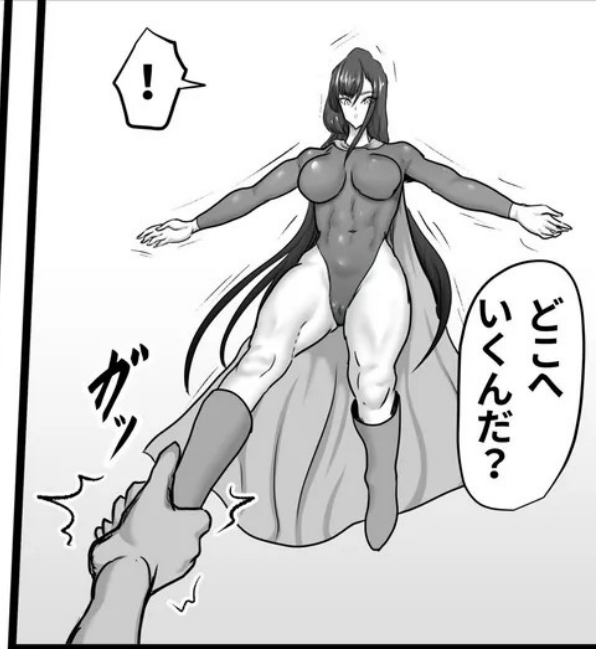
ニヤア...

どうやってそのすました顔を
歪めて無様に這いつく
ばらせてやろうとな!

精神作用系の毒...
まずい...っ 距離を
取りながら戦わなければ...っ



マイティウーマン
これで終わりだ



どこへ
いくんだ?



ヒヒヒ...
もう逃げられんぞ?

しまった!



苦痛と快楽で
お前の心を支配してやる

や...やめろ...っ!
先生をはなせっ!

おお 気絶しながら
絶頂しているようだな

楽しみにしている
これからもっと
いたぶってやる

先生っ！

あっ……

あっ……

一撃……っ
今までどんな怪人の攻撃を受けても
ビクともしなかった先生が……！

そ……
そんな……っ





ヒヒヒ
他人を気にしている
余裕があるのか？



タケルくんは
気を失ってる
だけみたい…

いったいあれから
何時間たったの

ゴゴゴ

ゴゴゴ



お前の意志の強さは
凄まじいものだ
常人なら
感度が高すぎて
気が狂っているだろう

シッポ

グ
グ
グ

んっ！

うっ…

んっ！

グ
グ
グ

だが… いつまで
耐えられるかな？

グ
グ
グ

グ
グ
グ

鋭く深く突いてくる……っ

ズッ
ズッ

少し気を抜いたら
意識が持ってかれてしまう……っ

圧倒的な力と
精神を蝕む臭気毒…
ワシの策略は
完璧だったようだな

アハハハ…

バ
ン
ン

あっ

ズ
ム
ム

うっ

ン
ン
ン

くっ…

ズ
ム
ム

どうだ？マイティウーマン
自分が支配されていく
感覚は？

ズ
ム
ム
ヤッ



おお 良い反応だ
これが気持ちいいのか?

うっ...

や...やめっ!



ほら
こっちを向け



あああああっ!!

あああっ!

ああっ!

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ

どうした
マイティーウーマン
さっきまでの威勢は？

どんな痛みも
快感へと変わっていく…

私の心と身体が
ヴェノムに支配されて
いくのがわかる…っ

は…っ
はな…せ…っ！

ず…る…っ！



ずいぶん呆けた顔に
なったじゃないか



ヒヒヒヒ絞れば絞るほど
潮を吹きよる

こりゃ面白い！

我慢が出来ない…っ

快感を抑えきれない…っ！！

グ
ス
ム
ジ

ス
プ
ス
プ

ム
ス
ム
ス

ム
ス
ム
ス

あ…っ
あああっ！！



おおっ!!

ま… 負ける…

このままじゃ… ヴェノムに…
私は勝てない…っ

ビキッ
ビキッ
ビキッ



無様な姿だな

お前を完全に支配するまで
その身体を蹂躪し続けて
やるぞ

あっ…

ああっ…

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ゴホッ

…うお

ビクッ…



ハッ

ドブツ

うっ… いつの間に
気絶してたんだろう

まだ身体がマヒしてる…



なんだろう
この音は…

ハッ

あ… あれは…



せ…
先生…??

ハッ

ドブツ

ドブツ



薄暗い部屋の中
目を凝らすと…

怪人にのしかかられ
力なくこちらを見つめる
先生の姿があった

ハッ

ああっ

残念だったな
頼りのヒーローもこのザマよ

ガキが…
目を覚ましたか？

そうだ先生は…
この怪人にやられて…！



ワシに全てを
ささげるまで
もう少しただ

あっ…

あ…っ



ジュジュ

あっ…!

ジュジュ

どんなに
痛みつけても
嬌声を上げる
マゾ女に
成り下がったぞ

あっ…!



そんな… 先生が
手も足も
出ないなんて…っ



あああんっ!

グアイッ

ズン



おごほっ!

楽しみに待って…



ヒヒヒ…ガキ
この女の次は
お前だ



なっ…

私の……っ

ハア
ハア



私の…生徒に…
絶対に手を出させないわ!



先生!



時間が経って
少しは動けるようになってきた…
まだ私は戦える…っ！



ガキの前でいい格好を
したいのか？

まったく……



そうだ先生はいつだって
あきらめない！
あの時…
ボクと約束したんだ！



無駄なんだよ!!

!!

グッ

いくら
抵抗したところでなあ!!

ア

ア



快感が強すぎて…
力が入らない…っ

意識が…朦朧として…
このままじゃ また…
気絶してしまっ…

クククク



タケルくん…っ!



先生!

そんなやつに負けないでっ!

はあああああ

ほう……

そうよ……!
どんな時も
あきらめないって……

私はあの子と
約束したの!





私は……
絶対に負けられない!!





そ...そんな...

ドチャ

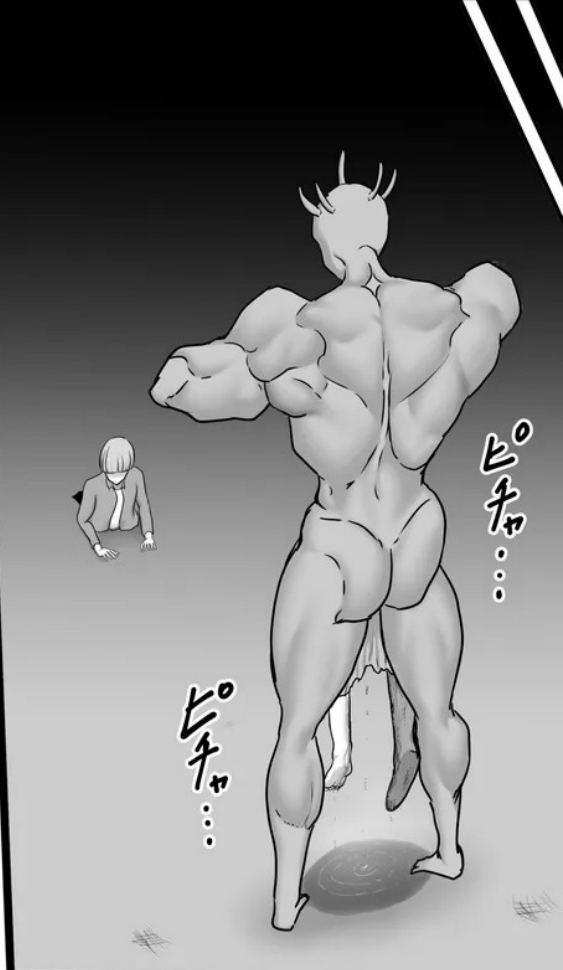


ハッポ...
ハッポ...

ずる...

ヒチャ...

ヒチャ...



ヒチャ...

ヒチャ...



少し焦ったが
もともはずいぶん
消耗していたようだな

ヒュヒュ





勝負あつたな
マイティウーマンよ

先生——っ!!

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ

ゴッゴッ



ヒュム...

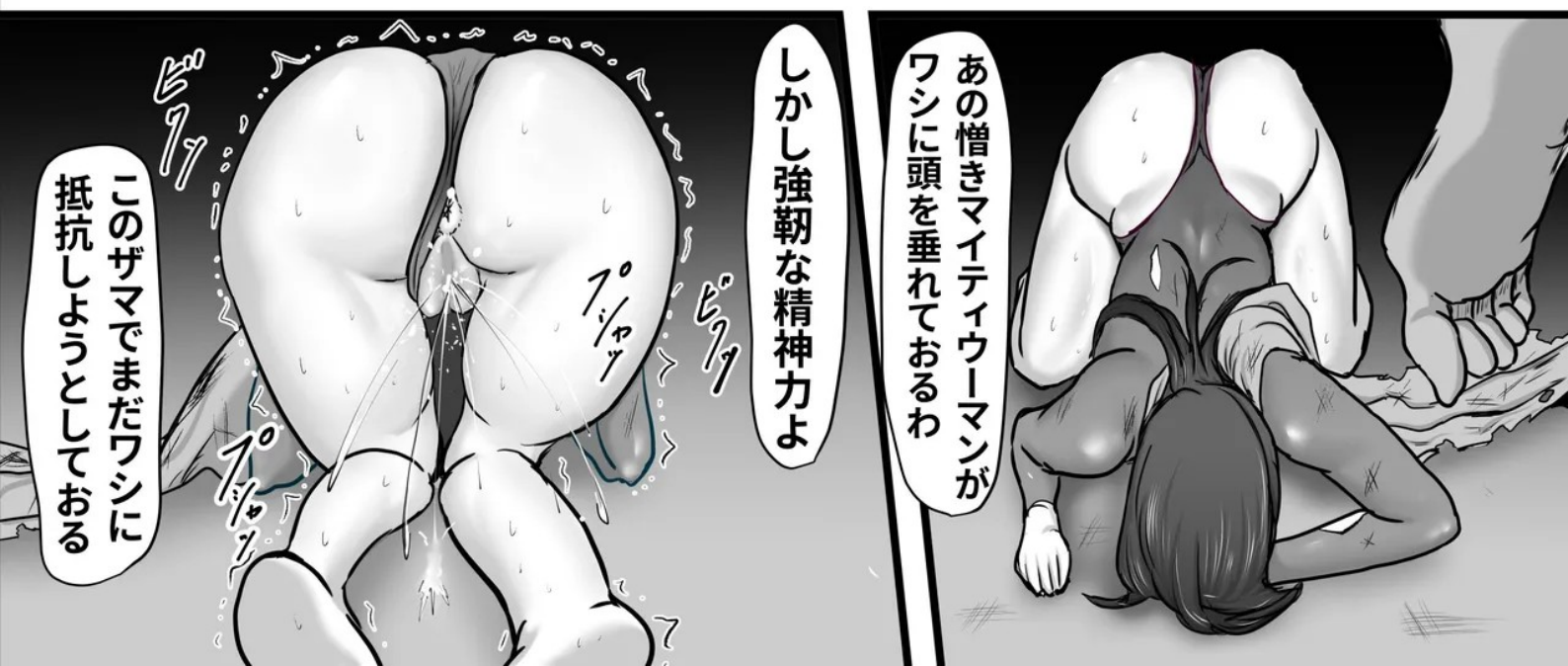
いい眺めだ
もう立ち上がる気力も
ないようだな

あつ...

あつ...

ハア...

ハア...



このザマでまだワシに
抵抗しようとしておる

しかし強靱な精神力よ

あの憎きマイティウーマンが
ワシに頭を垂れておるわ



さて仕上げといふじやか

身の程というものを
ワカらせてやるじや

お前はヒーローでも
なんでもない
ただの肉ツボだ

あつ!

ああっ……!

あああつ!



タケルく……ん……っ

逃げ……て……っ!



ああっ!

もう……ダメ……っ
私が私じゃなくなる……っ

あつ……!

その後も先生は
懸命に身をよじって
抵抗していた

あんなに強かった先生が
怪人の指一つで
もだえて身体を痙攣させていた

そのたびに性器から水が
勢いよく噴き出した

しだいに声が濁ってきて
声色もどんどん甘くなつて…

先生の抵抗する声が
聞こえなくなった頃…

やめ…
て…っ

あんっ!

あんっ♡

あああ♡

イクっ♡

…っ♡

グ
ア
エ
ツ

あ
っ
グ
ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

ア
エ
ツ

…♡

先生は
負けちゃったんだ…

あっ…♡

……………

怪人の
されるがままになって
何度も絶頂し続けて

弛緩しきった先生の顔を見て
ボクはようやく悟った





おい どうして
欲しいんだ？

身体が…っ壊れるくらい
もつと痛めつけて…
激しくぶち犯してくださいっ！！

私をもっと…っ
蹂躪して下さうっ！！

ああんっ！！♡

あんっ！！♡

あんっ！！♡



私はぶたれて悦ぶ
マゾ女なんです…っ♡

ヒヒヒ
よく言えたじゃないか

こ…こんな気持ちいい…っ
身体に作り変えて頂きっ
ありがとうございます…っ♡

アアア

ズ…

アア

わ…私は…っ
ヴェノム様に愚かにも挑み
完全敗北した
馬鹿メスですっ♡

この身の程知らずが
二度と逆らえ
ないように…♡

あっ♡

も…もっと暴力的に
蹂躪して格の違いを理解
させてくださいっ♡

あんっ♡

イクっ♡

グググッ

負け犬根性が
沁みついてきた
ようだな

ははいっ♡
私は闘志折られて
鳴く事しか…
で…できなくなつた
負け犬ですっ…っ♡

んおおっ♡

い…今までの無礼…
どうか お許し
ください…っ♡

ググッ

ググッ

ググッ

ググッ

ほうびに
怪人の優秀な
子種をやろう

あああんっ♡♡

ブルブルルル

ツ

ト

ヒツヒツ
しっかりと顔にも
かけてやるぞ

あ…ありがとうございます♡
「じゅ」

ドホッ
ドホッ

あのマイティウーマンが
ワシの陰茎に
すがりついて離さんわ

すっすっ
すっすっ

もっ…もっ…
ヴェノム様…♡

ハア

ハア





ヒッチャ...

おい どうだガキ

今度こそこの女は
ワシのものだ...

どれだけなぶつても
快楽でヨガリ狂うマゾ女に
成れ果てたぞお

あっ♡

10ニシツ
10ニシツ

あんっ♡

ヴェノム様♡そのたくましい肉棒で
私をもっと突き上げてくたさいっ♡
私の身体に"負け"をもっと
刻み込んで下さい...っ♡


ヒッチャ
ヒッチャ
ヒッチャ...

グググッ
カッ
スッ
スッ



だからね

先生と
一緒に頑張ろ！



怪人に襲われて
怖かったと思うけど

タケルくんも
負けないで欲しいの



絶対に
強い男の子になってね

それまでは先生が
どんな怪人だってやっつけて
あげるんだから

約束よ♥

ガキ一人守り切れず

呆気なかったなあ
マイティウーマンよ

トコロオ...

これで
ワシのヒーロー研究は
更に飛躍するぞ



あっ...♡

あっ...♡

おっおっ♡

おっ♡

おっ...♡

おっおっ

トコロオ...





身体のシビレが
消えてる…っ!

クッ
…



身体が…温かい…

これは…
先生の力…??

ホク…



ヒヤハハハハ!



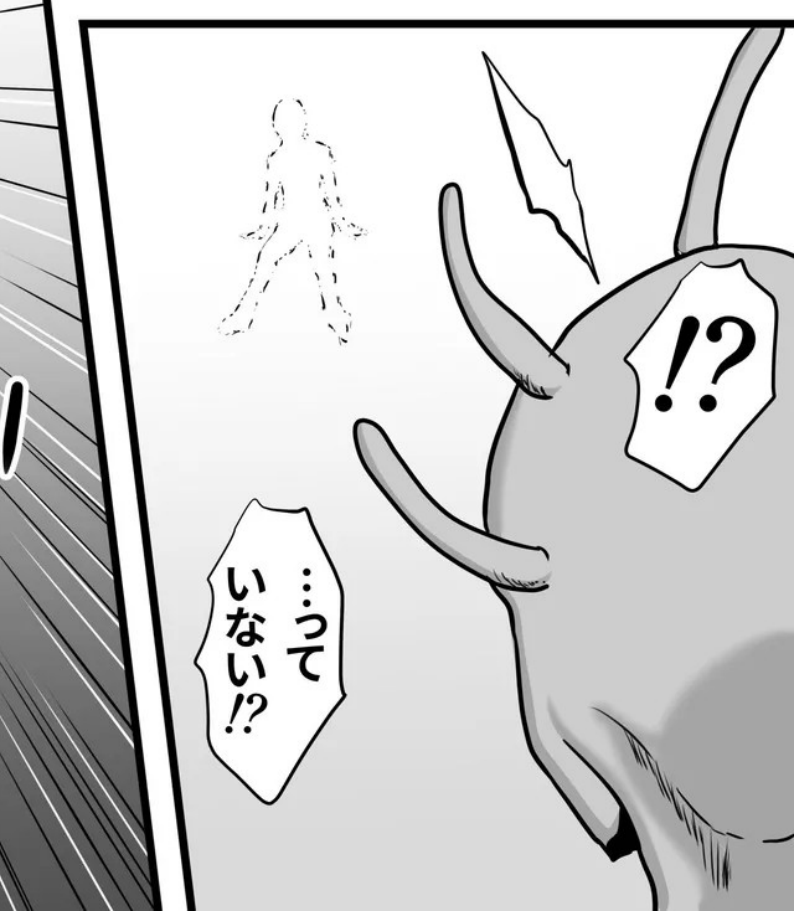
絶対ボクが
救ってみせるから!

先生…
待ってて!

ダッ
ッ



さて… おいガキ
次はお前の番だ



…っ て
いない!?

!?

■作者 ひなえろん
■X @hinaeron
■Mail hinaeron@gmail.com

この度はご購入いただき本当にありがとうございました。
変身ヒーローものは意外と今までやってなかった題材でした。
凛々しいヒロインがどんな感じで怪人に負けるかを考えるのが
難しかったり楽しかったりする作品でしたね。
気付いたらページ数もどんどん多くなっていてしまいました・・・！
少しでも楽しんで頂けたなら幸いです。



